

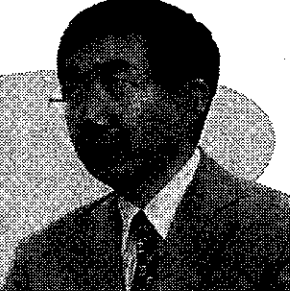
医療シリーズ 最先端の 歯科治療

特集1
歯科の
金属アレルギー問題を
解消する

長寿大国であるわが国の課題は「健康寿命」だといわれる。歯の健康も例外ではない。現在の歯科医療の問題は何か、最新技術はどこまで進んでいるのか等、歯科の最先端医療に携わる三浦宏之先生、飯島俊一先生のお2人に伺った。今週と来週の2回にわたり特集する。



東京医科歯科大学教授
三浦 宏之 氏
冠・橋義歯補綴(ほてつ)学の分野で研究と後進の育成にあたり、日本におけるジルコニア修復のバイオフィーム、歯科アレルギー分野の第一人者として活躍している。



東京歯科大学臨床教授
アイ・ティ・デンタルクリニック院長
飯島 俊一 氏
インプラント治療の権威。スイスのベルン大学、ドイツのフランクフルト大学等でも研修を重ね、臨床家の立場からインプラント分野を牽引している。九州インプラント研究会会長。

手足に現れる歯科の金属アレルギー

「歯科医療が抱える問題の一つとして「金属アレルギー」が注目されています。何が原因でどのような症状が出るのでしょうか。」

三浦 頻度としては非常にまれなのですが、治療に使った金属が長い間に口腔内に溶け出し、体に取り込まれてアレルギー反応を起すのが原因です。

症状として一番多いのは、手や足の裏に水泡や膿を持つた膿疱ができる掌蹠膿疱症です。季節とかかわりなく一年中症状が現れますから日常的に非常に困るようになります。

次いで、衣服などに触れている皮膚が炎症を起こす接触性皮膚炎や、発疹、湿疹などが代表的な症状です。歯の金属が原因だと、すぐにはわからないのでしょうか。

三浦 金属そのものがアレルギー症状を引き起こすのではなく、時間がたつて金属

がイオン化して溶け出し、体内に取り込まれてから反応が起こるので、症状と原因の関連づけがとても難しいのです。どのくらいの期間で症状が出るかは口の中の状態や人によってさまざまです。

飯島 前に治療した金属があるところに、新しく別な金属が入ったときにアレルギーが起ることが多いですね。金属はできるだけ使わない方がいいのですが、どうしても使わなければならない場合は、腐食の問題がない貴金属系の合金を使うようにしています。金属の腐食が原因で歯の質を悪くしてしまっている人は、数でいえばアレルギーを起

す人がほとんどです。治療という点、どのような選択肢がありますか。

飯島 昔からいろいろな素材が使われていますが、金

こす人よりもはるかに多いので、そのことも重大な問題なんです。

ところが、新しい金属を入れると、前からあった金属との間に電池のような回路ができ、電流が流れて金属が溶け出しやすくなってしまいます。その結果アレルギー反応が出てしまったら、金属をすべて同じものに統一するか、金属以外での治療が必要になります。

三浦 アレルギー源だとわかった金属は口腔内からすべて取り除きますが、症状が治まるまでには、数カ月から人によってはそれ以上かかります。また、なかなか完全にはよくならないという人もいますから、アレルギーが起さないようにすることが最も大事だといえます。

注目される05年認可の新素材

「金属以外の素材による治療」といって、どのような選択肢がありますか。

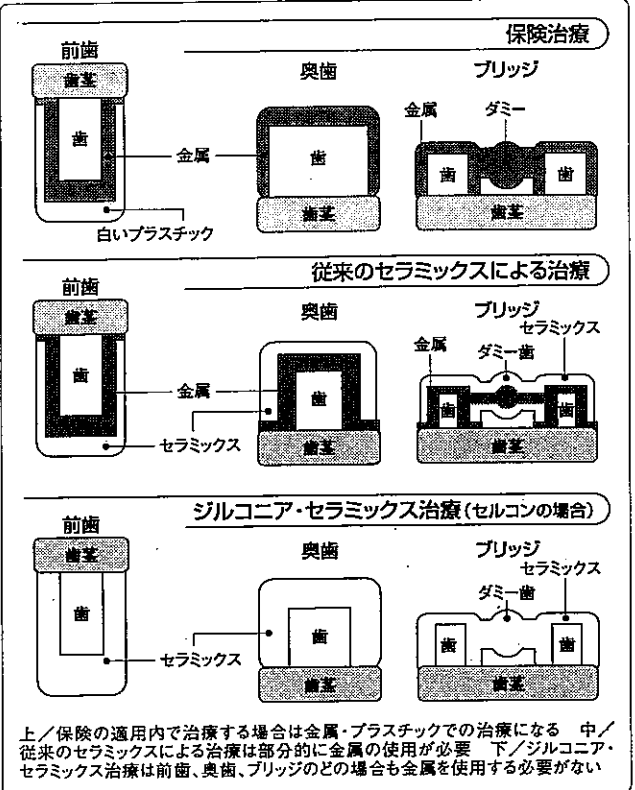
飯島 昔からいろいろな素材が使われていますが、金材が使われていたとしても、セラミックスの裏側の金属がわずかに透けるため、歯が黒ずんで見えてしまうという欠点もありました。また、前歯に使用した場合、セラミックスの裏側の金属が透けると、非常に良いものがないと、かなり強度の高いものが求められます。また、生体親和性といって体になじむものでなければなりません。

審美的側面からもニーズが高まる

「歯の美しさ、いわゆる審美」が注目されています。飯島 審美に熱心な方は本当に増えてきました。ジルコニア・セラミックスは審美の面から見ても天然の歯に近い美しさを持っています。すし、先ほど言ったように金属が透けるといって問題がありません。また、歯肉も健康で美しく保つことができています。歯肉の黒ずみの原因はいろいろありますが、金属が溶け出して歯肉に染みている場合があるんです。三浦 実際にジルコニア・セラミックスによる治療を行った患者さんの満足度は非常に高いですね。東京医科歯科大学歯学部附属病院では、倫理審査委員会の承認を得て4年前からジルコニア・セラミックスを使った

治療を行ってました。ブリッジに使用した例も60くらいありますが、非常に良い結果が得られています。ジルコニア・セラミックスの欠点はありますか。三浦 欠点は特に感じていません。保険適用外ですが、コスト的に患者さんの負担は少し大きくなります。飯島 普及してくれば多少は安くなるかもしれませんが、検診を受けて歯のメンテナンスを行うことが大切です。本日はありがとうございました。次回はいんプラント治療についてお話を伺いたいと思います。

提供/デンツプライ三井株式会社
http://www.dentsply-sankin.com



そこで今、私たちが注目しているのはジルコニア・セラミックスという素材です。ジルコニア・セラミックスは歯科治療の素材としては昨年3月に厚生労働省の認可を受けたばかりですが、整形外科の分野では人工関節の材料として以前から使われていたのです。大腿骨の骨頭に使用されているのですが、それほど生体親和性に優れ、強度も高いもの

のだということ。三浦 素材そのものの良さに加えて、製造法の違いによる利点もあります。金属の場合、一度溶かしたものを鑄型に流し込んでから固めて作るためにごく小さな気泡ができ、それが劣化の原因になります。一方、ジルコニア・セラミックスは素材のブロックを削り出して作るため、素材の品質がそのまま保たれ、三浦 強度が従来のセラミ

ックスよりもはるかに強く、陶材の性質である「もろさ」という欠点もありません。歯にかかるとはとて大きく、特に奥歯では最大で自分の体重と同じくらい力がかかるので強度は絶対に必要なもの。飯島 従来のセラミックス

では金属の上にセラミックスを焼き付けていました。そうすると当然、金属アレルギーのある人にとっては同じ問題が起ってきます。美が注目されています。飯島 審美に熱心な方は本当に増えてきました。ジルコニア・セラミックスは審美の面から見ても天然の歯に近い美しさを持っています。すし、先ほど言ったように金属が透けるといって問題がありません。また、歯肉も健康で美しく保つことができています。歯肉の黒ずみの原因はいろいろありますが、金属が溶け出して歯肉に染みている場合があるんです。三浦 実際にジルコニア・セラミックスによる治療を行った患者さんの満足度は非常に高いですね。東京医科歯科大学歯学部附属病院では、倫理審査委員会の承認を得て4年前からジルコニア・セラミックスを使った